

2 交通網の整備と人々の生活の変化

○高速道路網の整備と連絡橋の開通

海上交通網：瀬戸内海で古くから発達

→近畿地方や九州地方、東アジア諸国と結びつく

陸上交通網：1970年代に中国自動車道や山陽新幹線など整備

(**本州四国連絡橋** ***)の一つである瀬戸大橋が1988年に開通

→岡山市と高松市の移動が1時間以内に短縮

本州四国連絡橋の他の二つのルートの開通

→尾道ー今治ルート(しまなみ海道)、神戸ー鳴門ルート(大鳴門橋、明石海峡大橋)

南北方向の交通網の整備

→米子自動車道や浜田自動車道(瀬戸内と山陰)、高知自動車道(瀬戸内と南四国)の開通

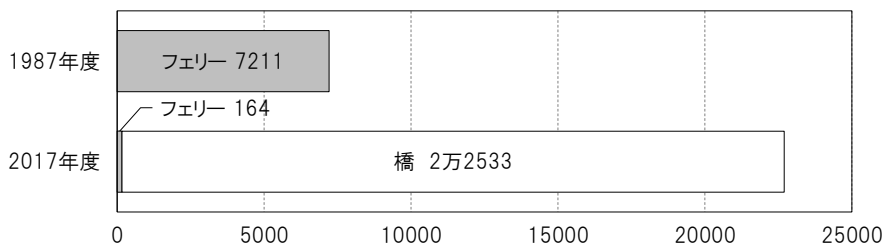
○橋の開通による島での生活の変化

本州連絡橋の開通による変化

- 瀬戸内の島々の島民の移動手段がフェリーから自動車へ
- フェリーの利用者は減少し、航路の多くが廃止、便数が減少
- 自動車を持たない人や高齢者にとって生活が不便になる面もある

→生活用品の輸送船、医療設備を備えた診療船、電子カルテの共有などの取り組み

＜瀬戸大橋開通前後の1日あたりの自動車交通量の変化＞



○交通網の発達による結びつきの変化

交通網の発達：中国・四国地方と他地域との結びつきに影響

大鳴門橋と明石海峡大橋の開通

→徳島県から神戸市や大阪市へ移動する人が増加

→「阿波おどり」などの観光目的で四国を訪れる人も増加

〔課題〕大都市へ買い物に行く人が多く、地方都市の消費が落ち込み、経済が衰退する